

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：沖縄総合事務局 道路建設課

担当課長名：田中 衛

事業名	一般県道具志川環状線 <small>ぐしかわ</small>		事業区分	地方道	事業主体	沖縄県						
起終点	自：うるま市天願 <small>てんがん</small> 至：沖縄市登川 <small>のぼりかわ</small>			延長	5.35km							
事業概要	<p>一般県道具志川環状線は、中部圏域の人口集積地である沖縄市とうるま市の市街地周辺部を連結する環状道路である。</p> <p>当該環状道路を2車線で整備することにより、増加する交通量に伴う交通渋滞を緩和、市街地への交通の流入を分散すると共に重要港湾中城湾港（新港地区）への物流の円滑化を促進するものである。</p>											
H8年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)		H9年度用地着手		H10年度工事着手							
全体事業費	約128億円		事業進捗率	53%	供用済延長	0.8km						
計画交通量	7,000台/日											
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 7.0	総費用 (残事業)/事業全体 46/130億円 (事業費：44/128億円) 維持管理費：2/2億円	総便益 (残事業)/事業全体 325/325億円 (走行時間短縮便益：305/305億円) 走行費用減少便益：13/13億円 交通事故減少便益：7/7億円	基準年 平成17年								
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市（沖縄市）へのアクセス向上が見込まれる） 個性ある地域の形成（特別立法に基づく事業である） 											
関係する地方公共団体等の意見	うるま市及び地元川崎自治会より早期整備の要請が出ている。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	石川市、具志川市、勝連町、与那城町が合併しうるま市が誕生し、新市建設計画に「道路交通ネットワークの整備」の施策に位置づけられている。中城湾港新港地区のうるま市側に特別自由貿易地域が指定され、立地企業も増えている。											
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに0.8kmが部分供用しており、さらに0.5kmの供用開始手続き中である。用地買収、補償交渉、改良工事、橋梁工事等が残っている。											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	他事業との調整、協議に時間を要していたが、今年度完了した。平成21年度までには用地取得を終了し、平成22年度に工事を完了させ供用の予定である。											
施設の構造や工法の変更等	歩道幅員を4.5mから3.5mに縮小することによってコスト縮減を図っている。											
対応方針	事業継続											
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性はあると考えられる。											
事業概要図												
凡例	<table border="1"> <tr> <td>供用中</td> <td></td> </tr> <tr> <td>再評価対象事業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うち供用中</td> <td></td> </tr> </table>						供用中		再評価対象事業		うち供用中	
供用中												
再評価対象事業												
うち供用中												